

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

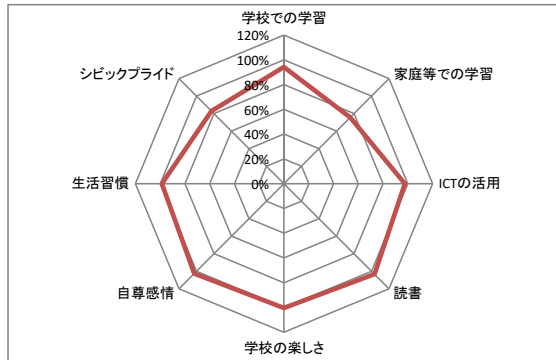
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	言葉の特徴や使い方に関する事項は、高い割合である一方、書くことが他の読む、話すこと、聞く領域に比べて低い割合となっている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する	
	努力が必要な問題	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	

算数	全体的な傾向や特徴など	4つの領域のいずれも全国や福岡県の平均を下回っている傾向にある。とりわけデータの活用の領域に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	
	努力が必要な問題	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。 主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語については、書くことに力点を置いて、教科書に示されている書く単元を見直して、教科の時間はもとより、朝の補充学習時間や家庭学習等でも書く活動を取り入れて書く力につながられるようにしていく。算数については、数と計算や図形、変化と関係、データの活用を紙媒体でしっかり書いてスキルアップが図れるように教科の時間はもとより補充や家庭学習の時間も活用しながら数量的な思考や計算する力をつけていけるように改善する。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

学年の時間プラス10分を目安として、家庭学習の定着を図っていく。課題についても教科領域から不足している要素を中心にした問題をできるだけ家庭学習に位置付けて取り組めるようにする。 則松小学校スタンダードの定着を図るために、学期ごとに振り返りを行う。
--